

項目	評価指標	自己評価		学校関係者評価	
		評定	今後の改善策	評定	具体的意見
環境づくり	1 病状や特性等を的確に把握する方法の検討・整備 2 ニーズに応じた指導・必要な支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸検査で実態を把握したり、保護者や関係諸機関から情報を収集して実態把握に努めている。</li> <li>・保護者や児童生徒の教育的ニーズを把握している。</li> <li>・実態に応じて教科・領域ごとのねらいや内容を適切に設定している。</li> <li>・前籍校や病院などと連携を図りながら指導に当たっている。</li> <li>・障がいの状態や発達段階に応じた学習集団を編成している。</li> <li>・実践の評価を踏まえ、指導計画に工夫や改善を図っている。</li> <li>・児童生徒の学習の状況や評価について丁寧に説明している。</li> <li>・教材・教具の整備活用を積極的に行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階等に関する理解・整理が不十分で、今後研修が必要である。</li> <li>・保護者面談の充実が必要である</li> <li>・病状懇談会に対する整理が必要である。</li> <li>・反省を次に活かすが不十分である。</li> <li>・病弱、就学等に関して、関係機関や病院との共通理解が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員と保護者との間に評価・認識の差がある項目があります。保護者への情報提供を図る必要が一部残っているようです。</li> <li>・資格を取得させたり校外での活動を進めているようですが、現場実習等校外活動の様子も見ていただきたかった。</li> <li>・当学校は病院との連携が生徒さんの医療的ケアには欠かせないものと思いますが、必要に応じて適切にやっているように感じた。</li> </ul>	
	3 ケース会議の計画的実施 4 寄宿舎生一人一人の生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東病院生全員と必要な通学生について実施する。</li> <li>・舎生全員の支援計画を作成し、それに基づく指導を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階等に関する理解・整理が不十分で、今後研修が必要である。</li> <li>・保護者面談の充実が必要である</li> <li>・病状懇談会に対する整理が必要である。</li> <li>・反省を次に活かすが不十分である。</li> <li>・病弱、就学等に関して、関係機関や病院との共通理解が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格を取得させたり校外での活動を進めているようですが、現場実習等校外活動の様子も見ていただきたかった。</li> <li>・当学校は病院との連携が生徒さんの医療的ケアには欠かせないものと思いますが、必要に応じて適切にやっているように感じた。</li> </ul>	
わかる授業づくり	1 各教科到達度等実態把握の方法の検討 2 個別の指導計画の作成 3 個別の指導計画に基づく適切な指導法の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力テスト（小中）、実力テスト（中）、NRTテスト（中）、進研模試（高）、県進学模試を実施し、学力の把握に努めている。</li> <li>・実態に応じた個別の指導計画を作成している。</li> <li>・スモールステップに沿った段階的な指導に努めている。</li> <li>・発達段階及び障がいの状態に応じた指導の展開に努めている。</li> <li>・発問や教材の提示、板書等において分かりやすい指導に努めている。</li> <li>・ティーム・ティーチングの利点を生かした指導に努めている。</li> <li>・学習でつまづいた幼児児童生徒を見逃さず、丁寧な指導に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査結果の有効活用が不十分であり、活用方法の検討が必要である。</li> <li>・記載内容が不十分である。</li> <li>・スモールステップの理解が不十分である。</li> <li>・研究授業・授業研究を進める必要がある。</li> <li>・T・Tの理解を進める必要がある。</li> <li>・放課後の補充等ができない状況あり、工夫が必要である。</li> <li>・外部機関との調整が遅れがちであった。職員の移行支援計画に対する理解が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親と職員の接点が薄れていく中で学期ごとに懇親会を持つ必要がある。</li> <li>・少人数のクラス編制で学習面でのフォローアップは図られているように感じます。一方で、集団適応力の課題があり、学校生活は良しとしつつ、社会へ出て行く、適応させていく支援が求められている。</li> <li>・一人一人の生徒さんの発達段階、特性を考慮した支援がなされていると感じました。</li> <li>・多数の生徒が様々な資格や試験を受験している姿に感銘した。</li> </ul>	
	4 継続発展性のある評価の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の移行支援計画の策定と活用をとおして、個々の能力・適正等に応じた進路指導を進めている。</li> <li>・学校は児童生徒の学習の成果を適切に評価している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検査結果の有効活用が不十分であり、活用方法の検討が必要である。</li> <li>・記載内容が不十分である。</li> <li>・スモールステップの理解が不十分である。</li> <li>・研究授業・授業研究を進める必要がある。</li> <li>・T・Tの理解を進める必要がある。</li> <li>・放課後の補充等ができない状況あり、工夫が必要である。</li> <li>・外部機関との調整が遅れがちであった。職員の移行支援計画に対する理解が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親と職員の接点が薄れていく中で学期ごとに懇親会を持つ必要がある。</li> <li>・少人数のクラス編制で学習面でのフォローアップは図られているように感じます。一方で、集団適応力の課題があり、学校生活は良しとしつつ、社会へ出て行く、適応させていく支援が求められている。</li> <li>・一人一人の生徒さんの発達段階、特性を考慮した支援がなされていると感じました。</li> <li>・多数の生徒が様々な資格や試験を受験している姿に感銘した。</li> </ul>	
地域との連携・支援体制の充実	1 本校の取組を地域へ発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に特別支援教育のセンター的機能について理解・啓発を図っている。</li> <li>・関係機関とのネットワーク化を進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレット等の配布による地域・保護者への理解・啓発が必要である。</li> <li>・地域のセンター的機能について、全職員が理解し、協力する体制の構築が必要である。</li> <li>・全職員が病弱・就学についての理解を深める必要がある。</li> <li>・教育支援部の活動について全職員で理解し、協力する必要がある。</li> <li>・全体保護者会の全員参加を目指した活動が必要である。</li> <li>・現在実施している保護者面談週間をより充実する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の基本が目の前のこどもをどう支援していくかにあり、外部との連携はまだまだ苦手な分野のように感じる。センター的機能を果たすべき学校地域の幼保小中高等学校を支援できる体制をより充実させる必要がある。</li> <li>・卒業後の進路も絡み、外部機関との連携は今後も深め、広げたい。</li> <li>・保護者へのアンケートの結果から、学校・保護者との連携がきちんとなされていると感じた。</li> </ul>	
	2 地域の幼保・小・中・高等学校への支援と支援人材の育成 3 保護者への理解と啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は外部の相談者のニーズに応じた教育相談や就学相談を実施している。</li> <li>・学校は、特別支援教育を必要としている児童生徒の支援を行っている。</li> <li>・特別支援教育のセンター的機能について教職員が共通理解をし、その体制を整えている。</li> <li>・学校はPTA活動を充実させるために積極的な努力や工夫をしている。</li> <li>・教職員は家庭との相互理解・連携について共通理解をしている。</li> <li>・学級担任は保護者と積極的に意思の疎通を図っている。</li> <li>・参加日や保護者懇談等、家庭との連携の機会を確保している。</li> <li>・連絡帳や学級通信などで学習の様子や学校での様子を知らせている。</li> <li>・学校は保護者の意見や要望及び情報の収集に努力している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレット等の配布による地域・保護者への理解・啓発が必要である。</li> <li>・地域のセンター的機能について、全職員が理解し、協力する体制の構築が必要である。</li> <li>・全職員が病弱・就学についての理解を深める必要がある。</li> <li>・教育支援部の活動について全職員で理解し、協力する必要がある。</li> <li>・全体保護者会の全員参加を目指した活動が必要である。</li> <li>・現在実施している保護者面談週間をより充実する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の基本が目の前のこどもをどう支援していくかにあり、外部との連携はまだまだ苦手な分野のように感じる。センター的機能を果たすべき学校地域の幼保小中高等学校を支援できる体制をより充実させる必要がある。</li> <li>・卒業後の進路も絡み、外部機関との連携は今後も深め、広げたい。</li> <li>・保護者へのアンケートの結果から、学校・保護者との連携がきちんとなされていると感じた。</li> </ul>	

(【A】：よく当てはまる。【B】：ほぼ当てはまる。【C】：あまり当てはまらない。【D】：全く当てはまらない。【E】わからない。)